

平成 20 年度 学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
授業力の充実と体系的な学習指導により、確かな学力の向上を図る。	1 小集団・習熟度別授業を効果的に行い、よりきめ細かい指導をする。	○学力の向上を目指した、よりきめ細かい指導ができたか。	○数学、英語、体育において、小集団・習熟度別授業を実施し、きめ細かい指導により、学習意欲の向上と学習内容の定着を図り、積極的な活動を引き出すことができた。	○継続して小集団・習熟度別授業により学習効果の向上を図る。体育においては、種目選択を工夫し授業に取り組む意欲をさらに向上させる。	(保護者) 生徒の授業に対する取り組みが十分でないようである。これは生徒による授業評価の自分自身に対する評価の低さにも表れている。もっとしっかり授業に取り組みさせることが必要である。 (学校評議員) 小集団・習熟度別授業は、生徒のやる気を引き出すような形態を工夫して、今後も継続して欲しい。 教員の授業力向上のための校外研修は、とても有効な取り組みなので、発展・継続すべきである。 生徒の授業評価結果の改善点等の要因を探り、今後にかかしていくことが重要である。	(学校評価) 小集団・習熟度別授業を、数学、英語、体育で実施し、きめ細かい指導を行い、学力の向上を図った。 「生徒による授業評価」の実施方法を改善し、その結果を受けて校内研修会を実施し、授業改善を進めることができた。また校外の研修会に積極的に参加し、指導力の向上を図った。 前年の評価結果を反映した実効性のあるシラバスを作成し、的確な観点別評価の活用を通して、授業改善を進めた。 (改善方策等) 生徒の授業への取り組みが改善するように指導するとともに、授業評価や研修会、シラバスを活用し、授業力の向上を目指す。小集団・習熟度別授業は実施形態を工夫し、生徒のやる気を引き出し、学力の向上を図る。
	2 「生徒による授業評価」の結果をふまえ、授業改善を一層進める。	○「生徒による授業評価」の実施方法は適切か。授業評価の結果をもとに授業改善がなされたか。	○「生徒による授業評価」の方法と結果の分析方法を改善した。授業評価の結果を公表・分析し、授業改善に役立てることができた。	○更に授業評価の方法を改善するとともに、その結果を活用し、授業改善を進める。		
	3 研究授業や研修会の内容に工夫・改善を加え、一層充実したものにする。	○研究授業や研修会の内容が工夫・改善され、一層充実したものになったか。	○思考力の育成をテーマとした研究授業および「生徒による授業評価」の結果を受けての研修会を実施し、教科内および他教科間で広く意見交換を行い、授業改善を進めた。また、校外の教育機関における教科指導力向上の研修会に積極的に職員が参加し、授業力の向上を図った。	○実施日程や研修内容を工夫し、効果的な研究授業や職員研修を実施する。また、校外の教育機関の研修の情報を提供し、積極的な参加を支援するとともに、指導力向上のノウハウを学校全体で共有するための方策を検討する。		
	4 実効性のあるシラバスや的確な観点別評価の活用により、授業力の向上を図る。	○シラバスや観点別評価を活用し、授業力が向上したか。	○前年の授業改善研修や授業評価の結果を反映したシラバスを作成し、的確な観点別評価を活用して生徒の学習意欲の向上や学習内容の定着を図り、授業力の向上を進めた。	○今年度の授業改善研修や授業評価の結果を反映したシラバスを作成し、さらに授業改善を進める。		

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
キャリア教育プログラムの実践を通して、夢の実現率100%を目指す。	<p>1 「キャリア教育実践プログラム」に基づき、計画的にキャリア教育を推進する。</p> <p>2 キャリアデザインセンターの充実により生徒の有効利用を図る。</p> <p>3 実力テスト等のデータを活用し、生徒の進路実現を支援する。</p> <p>4 生徒の学力到達度や意欲に合わせた学習機会を提供する。</p> <p>5 進路実現のためのより効果的なカリキュラムを追求する。</p>	<p>○「キャリア教育実践プログラム」に基づき、計画的にキャリア教育を推進できたか。</p> <p>○キャリアデザインセンターが更に利用しやすくなったか。</p> <p>○データを活用し、生徒の進路実現を支援できたか。</p> <p>○生徒の学力到達度や意欲に合わせた学習機会を提供できたか。</p> <p>○進路実現のためのより効果的なカリキュラムを追求できたか。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」やLHRを有効に活用し、キャリア教育を計画的に実践できた。卒業生や外部の人材を活用し、生徒のキャリア能力の向上を図る講演会やガイダンスを実施し、進路選択の重要性や自己の適性を考えさせることができた。また、1年生の宿泊研修を実施し、学力向上やキャリア教育のための初期指導の充実という所期の目的を達成することができた。</p> <p>○生徒の進路選択に必要な進路指導資料の収集に努め、1年進路系の生徒とも協力し、使いやすく親しめるキャリアデザインセンターの構築を図ることができた。</p> <p>○スタディーサポートや校内実力テストを実施し、生徒の学習到達度や学習状況を的確に把握し、進路指導資料として有効に活用することができた。また、進路指導データ活用等について職員研修会を実施した。</p> <p>○長期休業中は生徒の進路希望に即した多種多様な講座を開設し、また土曜講座では年間の各時期に生徒の実態に合った講座を開設し、生徒が自ら学ぶ取り組みを支援した。</p> <p>○来年度からの3年生に自由選択を導入し、より進路に即したカリキュラムを作成した。</p>	<p>○「総合的な学習の時間」やLHRのより有効な活用を図り、充実したキャリア教育の実践を目指す。3年生後期のキャリア教育について、生徒の実態を踏まえ、今後検討を進める。講演会やガイダンスについては実施時期や方法を更に検討し、より良いものを目指す。宿泊研修については、来年度、泊数と場所の変更にもない内容を再検討し、より良い実施を目指す。</p> <p>○資料の精選に努め、資料検索の合理化を進め、今以上に利用しやすいキャリアデザインセンターの構築を目指し、より計画的に生徒進路系の活動を行う。</p> <p>○校内実力テストの結果を、担任や教科担当者の進路指導資料としてより有効に活用することができるよう、工夫を重ねる。</p> <p>○さらに生徒の要望を把握し、参加意欲が高まる講座を追求する。</p> <p>○学校設定科目を含め、全学年における科目を、生徒の多様な進路選択に対応できる科目になるよう、さらなる検討を続ける。</p>	<p>(保護者) 長期休業中の講座は早い時期に告知して欲しい。予備校の講座募集との関係で、早い時期に計画が分らないと参加しにくい。</p> <p>(学校評議員) 「キャリア教育実践プログラム」を来年度さらに定着させて、よりよい実施をして欲しい。 長期休業中や土曜の講座は参加者が少ない。生徒のニーズをよく検討することが必要である。</p>	<p>(学校評価) 「キャリア教育実践プログラム」に基づき、キャリア能力の向上を図る講演会やガイダンス、1年生の宿泊研修等を実施し、計画的にキャリア教育を推進できた。 使いやすいキャリアデザインセンターを構築するとともに、校内実力テストのデータ等を活用し、生徒の進路実現を支援した。 長期休業中や土曜の講座を実施して、生徒の学力到達度や学ぶ意欲に合わせた学習機会を提供した。 進路実現のためのより効果的なカリキュラムとして、来年度は3年生に自由選択を導入した。</p> <p>(改善方策等) 講演会やガイダンス、1年生の宿泊研修、3年生後期のキャリア教育については方法や時期を更に検討し、より良いものを目指す。 長期休業中や土曜の講座については、生徒の要望をよく検討して充実させるとともに、早い時期に計画を告知して生徒が参加しやすいものとする。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>人としての「あり方」や「生き方」の哲学を通して、幅広い人格形成を図る。</p>	<p>1 生徒会活動や部活動の活性化を図る。</p>	<p>○生徒会活動や部活動が活性化されたか。</p>	<p>○生徒会本部を中心に各実行委員会が主体的に計画・準備を行って取り組むことができた。学習活動・学校行事・部活動等に生徒がけじめをもって主体的に取り組む環境づくりを図った。</p>	<p>○鎌高祭などの実行委員会の立ち上げを早め、企画運営がスムーズに流れるように計画的に行う。またけじめをもって生徒がより豊かな学校生活を送れるよう、学習活動、学校行事、部活動を調整する。</p>	<p>(保護者) 遅刻や授業中の飲食、携帯電話の使用など生徒の規範意識に考えの甘いところがあるのが必要である。</p> <p>(学校評議員) 鎌倉高校の地域活動への参加・取り組みは非常に高く評価できる。 アメリカやオーストラリアの現地校訪問や海外からの留学生の受け入れ、およびディベートコンテストなど、国際交流や英語能力向上の取り組みは今後も継続して行って欲しい。</p>	<p>(学校評価) 学校行事や部活動において、生徒会本部を中心として、生徒が主体的に取り組むことができ、活発な活動ができた。 「かまくら学」の実践および地域活動への参加を通して地域との協働を進めたことは、高い評価を受けた。また、アメリカやオーストラリアの現地校訪問、様々な留学生の受け入れ、国際理解デー等の取り組みにより国際交流を進め、「かまくら学」の実践と併せて、地域から世界に広がる視野の育成につながった。 日常的な指導により規範意識の育成に努め、マナーの向上を目指すとともに、安全教育や環境教育を充実させ、校内美化も進めた。 (改善方策等) 早めの実行委員会立ち上げによる円滑な行事運営を進め、生徒がけじめをもって豊かな学校生活を送れるように、学習活動と学校行事、部活動を調整する。 アメリカ、オーストラリアの現地校交流については内容や実施方法について本年の課題を踏まえて検討を進める。 遅刻や授業に取り組む姿勢、乗車マナー等、規範意識の育成を更に進める。</p>
	<p>2 「かまくら学」や国際交流活動への取り組みを通して、ローカルな視点を基盤とし、さらに世界へと広がる視野と豊かな表現力を持つ人材の育成に努める。</p>	<p>○「かまくら学」や国際交流活動への取り組みが視野拡大育成につながったか。</p>	<p>○「かまくら学」の実践、地域活動への参加を通して地域との協働を進め、また2年生日本史Bでの「かまくら学」への取り組みを通して地域への興味関心を高めた。 アメリカやオーストラリアの現地校への訪問や、シンガポールやAFS留学生の受け入れを通して国際交流を進めた。また国際理解デーにおいて英語圏以外の異文化理解を進めた。1学年ではディベートコンテストを実施し英語能力向上を図った。</p>	<p>○地域活動の情報の交換を進め、多様な参加形態を提示し、より一層生徒の参加を促し、地域活動への参加と、その意義の理解を進める。 アメリカ、オーストラリアの現地校との交流を効果的に実施するため、生徒の企画から実施、事後のまとめまでを、さらに主体的で自主的な活動になるように支援する。また、交流の内容や実施方法について本年の課題を踏まえて検討を進める。</p>		
	<p>3 マナーやモラルの徹底を図り、規範意識の育成に努める。</p>	<p>○マナーやモラルが向上し、規範意識が育成されたか。</p>	<p>○登校指導や乗車指導、学校行事の事前事後指導を通して、日常生活のマナーやルールが身につくように指導した。また、人権について理解を深め意識の向上を図った。</p>	<p>○社会のルールや日常生活のマナー、人権尊重についてHR・全校集会等を通じて、継続的に指導する。</p>		
	<p>4 安全教育や環境教育・校内美化活動の充実を図る。</p>	<p>○安全教育や環境教育・美化活動が充実したか。</p>	<p>○安全教育の一環として実効性のある避難訓練や救急法講習会が実施できた。また震災マニュアルを作成・周知し、防災・安全意識を高めた。 美化委員を中心にクリーンデーを計画的に実施し、校内美化を進めた。</p>	<p>○教室の配置換えに対応した実効性のある避難訓練を計画するとともに、継続して実践的な救急法講習会を実施する。また、よりわかりやすい震災マニュアルを作成し震災時の対応を周知する。</p>		

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手だて	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
地域に根ざした特色ある学校づくりを推進する。	<p>1 ホームページや学校見学会、学校説明会を通して本校の教育活動を広く知らせるとともに、地域につながる有益な教育情報を提供する。</p> <p>2 より良い独自の入学者選抜を実施し、信頼され特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>3 「かまくら学」の取り組み等、地域に対する発信を積極的に行い、地域活性化の核としての役割を果たす。</p> <p>4 図書館や体育施設の開放、公開講座に加え一層の地域貢献に努める。</p> <p>5 鎌倉市内の県立高校四校連携教育活動を通して、学校の枠を超えた継続的な教育活動を展開する。</p> <p>6 80周年の記念事業を成功させ、地域に対する役割を再認識する機会とする。</p>	<p>○教育情報を提供する仕組みを改善できたか。</p> <p>○より良い入学者選抜が実施でき、信頼され特色ある学校づくりにつながったか。</p> <p>○「かまくら学」の取り組み等が地域活性化につながったか。</p> <p>○図書館や体育施設の開放、公開講座に加え一層の地域貢献ができたか。</p> <p>○連携する他の三校とともに充実した教育活動を展開できたか。</p> <p>○記念事業が成功したか。</p>	<p>○ホームページや、学校説明会・学校見学会、中学校訪問などを通じて本校の教育活動や入試情報など最新の情報を発信できた。図書案内や国際交流コーナーを活用して生徒の興味関心を高め、学習の一助とした。</p> <p>○前期選抜では自己表現活動と面接を実施し、また後期選抜では独自問題による選抜を実施して、学習意欲のある確かな学力を持った生徒を集めることにより、特色ある学校づくりを進めた。</p> <p>○鎌倉市世界遺産担当、生涯学習文化財課、観光協会、風致保存会などと協働を進め、生徒が企画に参加し、連携を深め、積極的な活動となった。世界遺産登録活動への取り組みを中心に、「かまくら学」の学習とともに、生徒の「かまくら学研究委員会」に積極的な取り組みがあった。</p> <p>○「鎌倉を知る」をテーマに公開講座を開催し、地域交流に役立てた。</p> <p>○大学出張講義、海岸清掃、地域貢献デーを通じて学校の枠を超えた活動ができた。</p> <p>○80周年記念事業を盛況に成功させることができた。</p>	<p>○引き続きホームページや学校説明会などで情報を発信し、本校の取り組みの内容や活動の様子がよりよくわかるように提示の方法や更新のタイミングを検討する。</p> <p>○さらに検討し、よりよい入学者選抜の方法を模索する。</p> <p>○鎌倉市の各団体との協議を進め、活動での問題点や参加方法などについての方向性を定め、生徒の主体的な参加を進めるようにする。また、通年での地域の活動への参加の意義と地域の学習を進め、より実りのある取り組み内容とする。</p> <p>○公開講座のテーマの設定等については今年度の継続性を考え検討したい。</p> <p>○内容やスケジュール調整を行い生徒が参加しやすい環境づくりをする。</p> <p>○90周年に備え、記念事業の資料を整理し、掲示することなどで事後の活用を図る。</p>	<p>(保護者) 「かまくら学」はとても良い取り組みなので、今後さらに充実させ欲しい。</p> <p>(学校評議員) 鎌倉高校のホームページは充実して良くなってきている。さらに魅力のあるホームページを目指して欲しい。 図書館施設の開放は利用者が少なかったので検討を要する。</p>	<p>(学校評価) ホームページを充実させるとともに学校説明会や学校見学会を実施し、本校の教育活動についての情報を提供することができた。入学者選抜では前期・後期ともに独自の選抜を行い、信頼され特色ある学校づくりにつながった。「かまくら学」および世界遺産登録活動への取り組みにおいて、地域の行政や団体と連携を深め、積極的な活動を行い、地域活性化につながった。図書館の開放や「鎌倉を知る」をテーマに公開講座を実施し地域貢献に努め、また市内の県立高校四校連携教育活動を通して、学校の枠を超えた継続的な教育活動を展開した。80周年の記念事業を成功させ、地域に対する役割を再認識する機会とした。(改善方策等) 「かまくら学」を充実させ、鎌倉市の各団体との協議を進め、活動での問題点や参加方法などについて検討し、生徒の主体的な参加を促す。図書館の開放は利用者が少なく、本年の課題を踏まえ再検討する。公開講座のテーマの設定等については今年度の継続性を考え検討する。</p>

